

## 岩手県金融経済概況

### 1. 概況

県内経済は、横這い圏内にあるものの、一部に緩やかながら持ち直しの動きが見られる。

すなわち、生産動向をみると、IT関連分野では回復の動きが続いているほか、自動車関連では完成車が増産を開始するなど、全体として緩やかに持ち直しつつある。

また、最終需要の動向をみると、個人消費は全体として弱めの動きが続いているが、一部に下げ止まりの兆しも窺われる。この間、住宅投資は、貸家を中心に増加している。公共投資は、予算規模縮小の中、減少傾向にある。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、雇用・所得環境に捗々しい改善が見られない中で、全体としてみれば弱めの動きが続いているが、家電販売が堅調に推移しているほか、大型小売店の売上にも下げ止まりの兆しが窺われる。

#### (大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは全体としてはなお低調な地合いが続いているが、販売促進策の奏効や一部大手スーパーの閉店セールスといった一時的要因もあって、このところ売上高の前年比マイナス幅が縮小する傾向にあり、下げ止まりの兆しが窺われる。この間、「ウォームビズ」効果については、婦人スカーフ、肌着等を中心に動きが出てきており、今後に期待が高まってきている。

#### (家電量販店売上高)

家電売上高は、DVD等の動きが鈍いものの、薄型テレビが価格低下等から好調な販売を続けているほか、デジタル家電、高付加価値白物家電(ドラム式洗濯機など)、デジタル携帯オーディオ機器などの販売が好調なため、全体では堅調な動きを続けている。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数(軽自動車を含む)は、軽自動車が新車投入効果もあって好調に推移しているが、落ち込みの大きい普通車のほか、小型車も前年を下回り、全体としては盛り上がり欠ける動きとなっている。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、ハワイ、東南アジア等海外旅行を中心として、一部に持ち直しの動きが見られる。

(2)住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家が低調に推移しているが、貸家を中心に増加した。

(3)公共投資

公共工事請負金額をみると、予算規模の縮小から減少傾向にある。

3.生産動向

生産面では、IT関連分野を中心に回復に向けた動きが続いており、全体として緩やかに持ち直しつつある。

すなわち、自動車部品、設備関連等では高水準の生産を継続しているほか、電気機械等IT関連分野では回復の動きが続いている。また、完成車についても、増産を開始している。

(電気機械)

半導体・電子部品は、製品や出荷先により濃淡を伴いつつ、全体として回復の動きが続いている。

(輸送用機械)

完成車は、新設備の稼動に伴い増産を開始したほか、自動車部品では、海外需要が好調であることから、高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械では、自動車部品メーカー向けを中心に豊富な受注残を抱え、フル操業を続けている。

(その他)

鉄鋼(線材)は、一部海外での在庫過剰感から、操業度を低下させている。

合板、セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

紙・パ(段ボール原紙)は、飲料品向け需要の好調から、堅調に推移している。

#### 4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、10月の有効求人倍率は小幅ながら改善した。

一方、所得面をみると、所定外労働時間が伸び悩んでいるほか、常用雇用者数の減少やパートタイム労働者比率の高止まり等から、雇用者所得は全体として捗々しい改善をみていない。

#### 5. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きが続いている。

#### 6. 金融動向

預金は、個人預金がなお底堅い動きにあるものの、投資信託等預り資産へのシフトから伸び率が低下傾向にあるほか、企業の財務リストラ継続に伴う法人預金の減少から、全体では前年を下回っている。

貸出は、地元企業向けが資金需要の低迷から引き続き低調に推移しているほか、個人向けもこのところ住宅ローンを中心に伸び率が鈍化してきている。もっとも、地公体向けにおいて、長期資金の融通形態が債券発行形式から証書貸付形式へシフトし、貸出が増加しているため、全体では小幅ながら前年を上回って推移している。

以上